

第2回救急医療の現場における医療関係職種の在り方に関する検討会	参考資料
令和4年12月14日	6

○特区WG委員 ●厚生労働省

○カテゴリーⅡについて、特区の中で実証実験を早急に進める検討をしていただいていることについてはありがたいと思っているが、吉備中央町の要望、提案というのは、カテゴリーⅡに含まれないエコーを含む非侵襲の検査なども含まれている。こちらは、どのような検討状況にあるのか、検討を始めるならどのようなスケジュールで行われるのか。

●超音波については、かつて救急救命処置検討委員会で平成30年度に提案され、提案の中身の資料が不足していることによって差戻しになったという経緯がある。救急救命処置検討委員会での検討を経た上で、今、カテゴリーⅡにその四つの処置が存在しているところであり、その四つの処置というものをこれからどうしていくかということをもまずは検討していく必要がある。国家戦略特区の諮問会議の中でもそのカテゴリーⅡについて、今後、実証を先行的に開始することについて結論を得るということをされているところであり、まずはその四つの処置についてどのような実証をしていくかということを考えるのが先だと考えている。超音波検査については、吉備中央町において、将来的な議論を見据えて実施による効果や必要な教育について検討を進めていただいているところだが、現状、その超音波自体をすぐに救急救命処置に入れるかどうか検討をするというフェーズにはなっていない認識。

○諮問会議で決定されたカテゴリーⅡについて誠実に御対応いただいていることには本当に感謝申し上げるが、特区提案のエコーについて検討の俎上にのらないというのは理解できない。過去に提案され差戻しになったものは準備が不足していて、こうした点が提案の俎上にのらない点であれば、それを指摘してもらえば、吉備中央町や岡山大学病院で御用意いただけると思う。今、検討をしていただくためにはどのような材料が必要なのか、御助言いただければありがたい。

●昨年、救急救命士法が改正され、救急救命処置を行う場が病院前だけだったところが、病院内の一部にまで広がった。そのため、救急救命処置の範囲を広げるよりもまず、場が広がったことの効果についての検証が必要と関係団体と協議している。救急救命処置を考えるにあたり、病院の中まで含めて救急医療の一体的な議論をするため、今回新たな検討の場を設置した。その中で、まずはかつての救急救命処置検討委員会でカテゴリーⅡに分類された4処置の取扱いというものをまず検討した上で、今後のその他の救急救命処置というものについてどのように検討していくべきかも含めて、関係者の意見を聞く。

○当然、諮問会議での結論を重視するのは重要だが、特区で提案いただき、ワーキングが議論し、これを推進したいとお願いをしている超音波案件に関して検討していただくことは必要。厚生労働省の事務方、新たに創設された委員会の方にも早急に議論を投げかけて御検討いただきたいがいかがか。

●ワーキンググループのヒアリングにおいて超音波について議題が上がったことは関係者と共有する。ただ、救急救命士法の改正され活動の場が広がったのが昨年。加えて、既に検討がかなり進んでいる処置をどうするかまだ決まっていない現状がある。順番として、まずこの4処置の取り扱いを今年度中に決めることを優先して進める必要がある。

○医療現場からは色々な要請が出てきており、どれも重要であり、そこに順番付けをする根拠がよく分からない。超音波案件も含めて、是非頻回に議論をして結論を早めていただければありがたい。

○カテゴリーⅡについて御検討を進めていただいていることにまず感謝申し上げる。その上で、カテゴリーⅡと超音波の検討を同時に行っていただくことが重要な課題ではないかと思っており、超音波について、かつて検討した内容を教えて欲しい。吉備中央町がさらにどういった要素を補充すればよいか、明示していただけないか。

●かつての検討においては、実施の利点と、実施頻度、必要な教育体制、諸外国の状況についての必要な情報とそれを裏付ける資料が十分に示されておらず、提案内容の評価ができなかった。これは法改正が行われる前のスキームであり、法改正後にどのような形で新しい提案を受けるとは、今後、関係者と議論が必要。

○必要な事項はどんどん俎上にのせていくべき。具体的にエコー検査の実施を認めるという場合に、厚生労働省としてはどういう条件、あるいは要請があったらこれをその俎上にのせるという判断ができるのか。

●これまでとは異なる新しい関係者と今後、超音波だけではなく、他の新しい処置の提案は想定され、そういったものをどう扱うかを今後関係者の意見を聞いていく。今すぐに超音波についてどうやったらできるのか、我々がすぐに申し上げられるような状況ではない。

○スキームが変わった中で色々なものをやらなければならないことは理解しているつもりだが、是非カテゴリーⅡに加えて超音波についても検討を開始する、又は検討を開始するため必要な事項を明確にしてほしい。